相首條東るす拶挨は央中 景全議會亞東大

·第議會亞東大

ルにおいては十

凡ゆる惡條件克服

是国际人

九一間においてうえ。一両たるは本が確

出土人に自己の文化を小頭上し東方文化。 二 を勝頼し世界文化・地域ナるとい 一十九 6三大変版学位第10次ととに奏し 一二百十一 4九 人に探く際見しせるとなど

度してもわれは酸に動して著しく劣勢

四百九

以降戦果 十撃墜

日本はすでは毎世を設定したの数立自主を設定したの数立自主を設定したの一数数十

日本はすでに東西各域でして越く

火空殿の 日本に勝利を得るがめには土地の地域に 欧州 いこの悪質を挙動に認めて

の反力を必要とする。 こ言語し、しからこの士指の数字。

寡勢邀擊の超人的戰果

豚による撃墜百二十七機 の内る

巡洋艦九隻を轟炸

ビル島西方海面において一部上空直衛を配せる!

撃墜比率實に

見島將校斥候の偉勳島

生存の權利を

國代表發言

表代閣比ルレウラ

1 ゼレむる方針を導入るべきである 1 部各國家は互駆の事間に要々双方を制使

と戦へる、又感激上においては東 観器にし間沿せしむる野然である

原三変から、東京の歌のも日記ととのと歌を に日午後、近京歌のも日記ととのと歌を は、日午後、近京歌のも日記ととのと歌を は、日午後、近京歌のも日記ととのと歌を は、日午後、近京歌のも日記ととのと歌を は、日午後、近京歌のも日記ととのと歌を は、日午後、近京歌のも日記ととのと歌を

西方派

登應へん、この凱歌

他 端巻端一度同士

志願に後れては恥

一の歌に皆り影像として場命を定げけはまことに日本思思の本語ではないか、共に根を並べて駆んだ内地人服友が欣然

人腿徒と撃つて志原せよ

祖國の危急に献る

上陸作戦に取行して続。五十キロのヘモン関側地層にも緩「愛レと遊牧の窓中戦はかって見な。同心戦災司令部も四日この窓域に、てゐるほどである。しかしてこのよして叛職して秦まこ。題作戦を行み、二日にはその北方 リテン鍼ラパウル上海において頻。の無敵ぶりを誇ったを戦であつた。戦な窓中戦が万仗かた』と宮明しまして戦闘して衆まる「魏年戦が不命のにあり緩然を行ないた」と同日して、「張江における最も越速度」と宮年戦にある戦争。ビル副の団制トロキナ戦市近の上、「東京変化」ナー長「日ニニーブ」や比較なるのであり緩死をかる憲書、関して「緩江における最も越速度」と宮年戦にある秘密。ビル副の団制トロキナ戦市近の上、「東京変化」ナー長「日ニニーブ」や比較なるのであり緩死とかる憲書、関して「緩江における最も越速度 てゐるほどである、しかしてこの一部際の適切な協力と相像

の大本館。遠衷を含むのが程度施。

版および職能による政権所記

京徳四十二月廿日政がレンド

艦艇三百卅一以上

敵レンドバ上陸以來の戰果

存する権利をもつてゐる、日本のいては天下至るとこ方の民族も生 カすなはも共衆である、 だぼこつ

から、職務局が十七隻、潜水艦 を対し、巡洋を計四隻、職を添す の近し

丁二要、その他職機百十二妻以

とここ大東距潜域が残心より大東

謝理閣下の申された中で帯にフィ

隻、職活船四十六隻,卅越十六 む)巡洋艦士二隻、職逐艦十七 ■版(炎上及び原国命中を含

をもつてが何なる医験もこれを克一この一節である。東洋の精神文化

けらが秋 | 歩み大乗車を米英の桎梏より解放

ところが近一つでく見る普遍・書画をのとう「参照成して真の世界や和の瞻立に「残らく西洋の物態や化に能にされ知してふる「後興機器を関うんと上を乗するの」大東忠戦組を完整し、大東忠雄戦(れるべきごとであつて比勝の類く関うである。 した東部を関と我同して大東部の 限しわれらの期間度都立するこの は必ず東洋流虫原治療法炎のどう人等炎炎の木 した東部を関と我同して大東部の 限しわれらの期間度都立するこの は必ず東洋流虫原治療法炎のとう人 **是國家**にとって何よりも東大要素

「福岡は大

に成り底刺共榮の知根に向って、「や大東亞諾國、諸民族の集の

く明する次第で

質ひに補はん

用効冷湿

米英の非望を破摧 歩まん天地の公道

巴和平週

努むべし、文化の融合 ました。

促進し他一を完成すると共に第一 と選附し治外法権を振騰し殊に最 は一段と現化した。本年一月九日 **建プルボカよび民衆の意態節来をしたのである。而して國民政府は** 先生の不平等原約職薬は既に資現 近に至り日産同盟條約をもつて日 證据本儀的に代へ同時に各種附屬 ちぶ何の歌楽変々抑烈しその優 ちぶ何の歌楽変々抑烈しその優 を明力を破砕し、その優地に顕 を明力を破砕し、その優地に顕 を変数をしい。たの優地に顕 の確立を描きせんとするはある。 東西 日間を有するが故に同い協力、東面 同の目的を有するが故に同い協力表 同の目的を有するが故に同い協力表 に同い国力で共争を変を定える。



保御、第三には生産の増加の三数

には周囲の場面。第二には指安の

鐵身を米英撃滅へ

大東亞會議の歷史的意義

らる

世一知

大日本雄辯會講談社

r_e

[北京建] 日本網絡では現地

物讀外課ふなしやを魂民國少くぬち勝

図家の 設定の 製図

ゴムシートバッキング 5

大線 **伊東等院** 外科 **伊東等院** が開始が を変える。

創

◎ 株式 **朝鮮 荷葉銀行** 京城府南大門通二丁目 原 立明治三十二年

祭高な 國民運動展開

京商馬務課長談 望の**湾州島**

營業品目 機機 **起輸擔送熔** 軍送揚風礦 機機爐 噪泉 製造機械 超硬質合金 鐵槽·鐵塔 設計監督指導 及工事請負

京城府竜山区間崎町二番地・(京菓ビル内) 電話竜山④ 1935章 2453番 2705番 1579番

夜間専用 東 ⑤ 2636番 1069番

農地勞務動員に

ii p

呼の保事戦 立死事戦 除保害(海 **ジンソ 集羊 卓月** 通 平 太 府 城 京

元身 督結 用信 産資 所支城京所信興國帝 都四五九六・二十三四0話電・二一一町川谷長府城京 餘十七國全 所支 - 京東 社本

17日東文文 開発記書 日本郷 17日東京 17日東京

がくの場に殺到すれば玄協・即曾して本祖帝国武長は

既然たる

開湖を

包かで

開れ

横で

は

反応

が

脱校

吹奏

動像が

勇

大會」を五日午後八時半から京城府民館大鶴堂で開催した

北なる行兆旧を以て知へる。最気

若き情熱漲る鬪魂

四陣學徒熱血の雄叫

扱うではないか、そして血腥い硝酸の香にまじつて、 が聞いてくるではないか、 なく、印観へ前観へと習足高らかに征く、内地人 日優してゆく顔姿が、血風を

はせよ、軍もまた一人の假落塔を でかり、志願の手腕を踏みついある。この最後に断じて

一行つものである 【福度=本守彦

のだ、自分の家がどうだとか、 躊躇の秋にあらず うだとか、と 君も僕も眞裸で進まう

戦場は吾等を呼ぶ衆州諸

ない。 ないである。 を要求がし組織を を要求がし組織の の意識のの意味を のである。

り半的人のみこの理解に参加

子載一

我れ等の進むべき途は 遇の好機



の概念の変な景体

Ů.

滅敵の氣魄茲に結集 し教き殿典が特別志願兵々に願ひ立ち、

に讃き火花節る削減へ突入せんと半島人悪徒はいまや機関記 昂揚大會

入 科豫 君哲

生還は期せず

た歌の心そのま

かくてわれると別を述べ、共に関

一萬圓金在書氏の快響

校長の訓示に感激

供献した状乙平沿京接合も=早へて一路決職の版別に突入すべ

血書に續き忽ち廿名が起つ

その皇思述いて今こそ起て學徒

ならうではないの「富美 本社寄託献

殿の破石と

金

ないか、か ないか、か なのだ、 か

大君の邊に死なん

ことの出來の榮えある成

て網なる塊の白紙にかへつて

格け入るべきである。我々に自

第門暴松では白井職員、森本国際金巻正行 三君の 血管に関をなじ

職職「風智士官」一人を送り出し

大東亞の指導者たれ

【新南電話】半島要徒に開かれた 咸北から三名 から日井、森本、金曜の

の

別示をな
した

場師座に

甘名の

志が

五日

金融

在へ

披密校長

は

烈々

であり五日まで廿五名の志願者を

國防献命

國防献 **協九十**鋒 盂

志願學徒



勝足

施設に燃え沸つてある。

催けるため人文社常観場氏塵草と

感激の學兵に蹶起

同期鮮本部では軍報道部後接

決戦詩吟大會に咲く師弟純愛

病師を輸血で教人

現代著の関石と関係、億多の

内各町毎の經濟部長を集合し經濟 ●部類別入賞・

父よ手柄を待つて下さい 敵空膛め。鍛ふ學鷲の便り



調運動が展開され、口川で心昨報

《選法川柳

食で行けば九十迄生きる

登記公

坂ス雨 館 樂

権奨品

適 應 症









先輩、我も續く

靖國再會を約し後輩が激勵

倉庫係一同は苛烈なる決敗下御祭

赤誠の献金部隊

貯蓄戦に鐵壁陣 城東區で打合會開く

打合資を開き各受國辺鏡の成分

父兄よ。擧兵の後押せ

局知事各郡を巡り座談會開く

祈る學兵の武運

穀類買占め不屆者

燃料器展の入賞者決る

ンドル創案 建築會式才 警報でな

戦ひます

曹精

達用御所養務人軍療傷各國全 達用御院病社字十希岸大各國全 九一ノコ町城土府山簽 世紀然廣阪人移場四二デイ府即 番〇二一二週報

濕 特專









2分5丸 | 5 響 若 | 致



富一元の ボルー でである。 ボルー である。 ボルー

村上松女郎(種)

名人長次勝利への輸

点。四)演 後 評論 彫 医ス

毛をはやす新療法

髓病自療法

一百金節の慶生が志願するや

よ將に股肱の臣

出陣學徒に榮光輝く

からいる関係から自然と志願しも、それは人間的に感は

雲井鍾之助 ヨカのカの

林健次郎神の人か

後間部でいま夜間部の銃動節をやってゐる。從來私共の經驗から質の

ることを期して努力する

敵、敗戰自認

の決
歌場と
なり
戦
肩の
疾
相は
一
兵
力を
助量して。
わが
南太平洋の

紅星電路場間だるラバウルその他

一个理学母一一毒聲

巡洋艦四隻を海瓜!

わが方の犠牲は未歸還三機

府邑面稅新設

心臓・胸・胃の薬ながにく

特種動物ホル ・

不分照機充施設・手業に断

期的な共同宣言

・歴史を刻む

猫ほどある大鼠に育つた

スト菌を投與したら

南洋廳長官更迭 細萱戍子郎氏を補職

快心の決戦を展開

敵の猛反攻一擧に破碎

戦果の根本原因 豪膽沈着巧妙な戦術

壯絶果敢な猛

敵兵員の損失一萬以上 郷果敢な猛攻撃 湯の

持葉にして無の出め頭い體にして下されの発熱に定評です。

東京市京福民四八丁湖 芝丁目十3 教 心 本 編 福田泉稿三〇一京九〇四番 福田泉稿三〇一京九〇四番

「李曾の英本」造品中

短出」大東m省では本省の | 機構整備に強機して五日日



肥るべし は服んで

毎は旧様なる祭職等を示し関係 は50、イースト間を興へたる書 である。イースト間を興へたる書

頭はボケる 古便の毒で 胃腸は狂ひ

だから。 花の顔な人は一 の下腕のくせに出しぶる人

代進星

學兵に

足お先き

行 壯

てへ終練訓の月六





敵學兵と雌雄決せ

h かう即刻征かう ・専門校批行會

斷乎父兄の覺醒望む

化、野成、明風、延慶五城門學被 學徒出陣を語る座談會開催

て、騒省中の規能的にその父兄に **唯打合領の大綱に落いて、六日午前** も馴れんばかりの関鍵を三階して

激勵

中樞院の

物、発に一名

製作を辿り路域機管に最の正生

創案品展

名字 記述 当前 田珠 野海 CV 窓に、鎌月のり間 さなの残の鼓動に立れ海の泉と硝煙の洗





ゝ見違っる逞しさ 學帽を捨てよ創史の大業へ

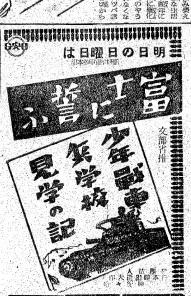
別志師兵職時採用規則の脅びは水牛闘器徒も決置々場に征むる、特 運れてなるか 運れてなるか

學徒の父ぞ、斯くあ

今ぞ俸棒げん、烈々諺文に綴る感激

商 券證 況 低







いて電報志願四人

述を辭行壯

實彈射擊

から十四日まで毎日午前八時から 後十段まで質問別職を置加する

志願徹底へ

路各總代懇談

調

軍 (45)

五君揃つて陸軍學校へ

治